

自然の魅力輝くまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>環境保全</b>		
<b>潟や森等の自然環境の保全</b>		
○北区には、福島潟をはじめ阿賀野川や日本海に面した海辺の森や田園風景など、豊かな自然に恵まれています。市民の憩いの場所となっているこれらの環境を将来に残していくことが重要です。	○自然環境の保全のため、市民や隣接する自治体等との連携、協働により環境保全活動の推進に取り組みます。	
○自然環境の保全には、自然保護に関して積極的な活動を行っている団体への支援や育成が重要です。また、区民の環境保全意識を高め、地域協働による保全活動を継続するための体制づくりも求められます。	○自然保護に積極的な団体やNPO法人の活動への財政的な支援や必要な情報の提供等を行います。	
○福島潟、十二潟やひょうたん池には、希少な動植物が生息、生育しています。希少種の保護や外来種の駆除などが求められます。	○水辺の希少な植物の保護や外来種の駆除にはNPO法人等の活動が重要です。これらの団体に必要な支援を行います。	
<b>快適な生活環境づくり</b>		
○阿賀野川では、河川敷にスポーツ施設などが整備され、憩いの公園となっています。また、新井郷川や福島潟放水路などの水辺の環境は、地域住民の生活に潤いを与えています。	○身近な河川や水路の水質保全を図るため、家庭などからの排水を「公共下水道」や「合併処理浄化槽」により適切に処理することで、公共用水域の環境改善を進めていきます。	
○河川や潟、放水路に沿った地域では、ごみの不法投棄が見られます。この対策として、区民への意識啓発活動を続けていくことが重要です。	○ごみの不法投棄が見られる場所では、クリーン作戦等の活動を実施していきます。多くの人に参加してもらうことで、環境美化への意識を高める効果につなげます。	
<b>自然環境活用</b>		
<b>環境教育・自然とのふれあい</b>		
○ 北区は、豊かな自然から多くの恵みを受けてきました。特に、福島潟や海辺の森などでは、魅力ある自然環境を教育や観光に活用しています。	○環境教育や自然体験の場、地域づくりの場、ふれあいと憩いの場として、自然環境を活用します。	
○福島潟、十二潟やひょうたん池では、地元の小中学生が環境学習に取り組んでいます。このような活動が継続していく体制づくりが重要です。	○水辺等で行う環境学習には、NPO法人等の活動が重要です。これらの団体に必要な支援を行います。	

自然の魅力輝くまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>観光交流</b>		
<b>交流人口の拡大</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福島潟は、新潟の原風景を今に残し、独自の自然環境や食文化なども魅力の一つとなっています。</li> <li>○ 海辺の森周辺では、キャンプ場や遊歩道が整備され、自然を楽しむ空間として利用されているほか、島見浜海水浴場など海岸線は夏季のレジャースポットとして、市内外からの観光客や家族連れ客に人気があります。</li> <li>○ 観光資源としては、福島潟をはじめとした美しい自然景勝地や歴史スポットが多数存在します。</li> <li>○ 地域の魅力や特徴を活かした観光振興を図る上では、宿泊施設の拡充や交通機関のアクセス向上が重要です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然環境の魅力を発信し、交流人口の拡大を図ります。</li> <li>○ 訪れた方が北区の観光を満喫できるよう、観光資源の充実に努めます。</li> <li>○ 北区の観光資源の発信に携わる人材を育成し、さらなる観光振興を目指します。</li> </ul>	

未来へ続く活力あるまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>商工業</b>		
<b>工業の振興</b>		
<p>○ 新潟東港は、本州日本海側で最大のコンテナ貨物取扱量を誇る物流拠点として、その取扱量は順調に伸びています。新潟空港に隣接し、国道7号(新新バイパス)や高速道路などの交通網も整備されていることから、産業立地には優位な環境にあります。この恵まれた立地環境を活かし、地域産業の活性化や雇用の拡大へつながる企業誘致を進めることが必要です。</p> <p>○ 国際拠点港湾・総合的拠点港である新潟東港は、東アジア諸国を結ぶコンテナ航路があり、国際貿易港として機能整備が進められています。</p> <p>○ 国際環境の変化など、不安定な外部要因が多い環境ではありますが、国際物流拠点である新潟東港を活かして、地域経済の活性化が求められます。</p> <p>○ 新潟東港においては物流機能だけでなく、クルーズ客船の寄港など人的交流による観光振興も視野に入れていくことが重要です。</p> <p>○ 区内には多くの工業団地があり、製造業や物流関連企業が集積しています。</p> <p>○ 国内外の企業間競争が厳しくなる中、国際的にも通用する新技術の開発や、労働生産性の向上が必要となっています。</p>	<p>○ 新潟東港の活性化につながる産業集積・企業誘致を図るため、製造や物流関連産業などに対して、新技術の開発支援や立地環境の整備を行い、雇用の拡大に努めます。</p> <p>○ 関係団体と連携を図り、環境に配慮しながら工業団地の維持、活性化に努めます。</p> <p>○ これからの新潟を支える基幹産業の育成に努めます。</p> <p>○ 中小企業者の生産性向上、脱炭素化に向けた取り組みを図ります。</p> <p>○ デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進による新事業への取り組みに努めます。</p>	
<b>商業の活性化</b>		
<p>○ 各地の商店街は、郊外型大型店の進出などの影響や後継者不足により衰退が進み、空き店舗が増えてきています。商店街それぞれが持つ魅力を高め、広く発信するとともに、集客力を高める工夫が重要です。</p> <p>○ 商店街の魅力を創出し、活性化を推進していくため、核となる人材の育成が望まれます。</p>	<p>○ 北区内の商店街が一体となって行う取り組みや各商店街による賑わい創出、並びに人材育成の取り組みを支援します。</p> <p>○ 商業、農業、観光、大学等関係機関と連携した取り組みにより地域の賑わい創出を図ります。</p> <p>○ 民間団体の活動を促進し、まちの活性化を図ります。</p>	
<p>○ 葛塚と松浜には伝統ある露店市が開設され、多くの買い物客で賑わっていますが、近年、出店者の高齢化に伴い店舗数の減少が進んでいることから、新規参入を促進する必要があります。</p>	<p>○ 葛塚市・松浜市が連携して行う事業や環境整備の取り組みを支援し、誘客の増加を図ります。</p>	

未来へ続く活力あるまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>大学等連携</b>		
<b>若者との協働によるまちづくり</b>		
<p>○ 複数の大学が立地している強みを活かし、大学等と連携した事業に取り組んでいます。</p> <p>○ 商店街や露店市場の活性化などに向け、大学生など若者の感性や力を活かし、地域と大学等が連携しながら、魅力あるまちづくりに共に取り組むことが望まれます。</p> <p>○ 人口減少・少子高齢化が進展する中、より一層地域と大学(生)とのつながりを深め、まちづくりに若い力を活かしていくことが重要です。</p>	<p>○ 商店街や露店市場など各種イベントに大学生はじめ若者の参加を促し、活気ある地域づくりを進めます。</p> <p>○ 商業関係団体と大学との連携強化を図り、地域に親しまれる魅力ある商店街や露店市場の形成を目指します。</p> <p>○ 商業、農業、観光、大学等関係機関と連携した取り組みにより地域の賑わい創出を図ります。(再掲)</p>	
<b>農水産業</b>		
<p>○ 北区では米を中心に野菜、果樹、花き、畜産など、多種多様な農畜産物の生産や漁業が行われ、中でもトマトとなすは、県下一の出荷量を誇っていますが、農業者の高齢化や担い手不足により、生産者数や生産量が減少しています。</p> <p>○ 米需要の減少による価格低迷や燃料・資材などの生産コスト高騰により、農業者への所得安定対策が大きな課題となっています。そのため、生産コスト低減、ブランド力向上により他産地との差別化を図っていくことが重要です。</p> <p>○ 農業者の高齢化や後継者不足に加え、農産物の価格低迷により、遊休農地の拡大が懸念されています。このような厳しい状況の中ですが、意欲のある新規就農希望者を積極的に支援・育成していくことが必要です。</p>	<b>農業経営所得向上</b>	
	○ 生産コスト低減、農水産物の高品質化及び付加価値向上を図り、農業経営の安定化及び所得向上の取り組みを推進します。	
	<b>農業経営者確保</b>	
	○ 農地の集積・集約化及び農作業の効率化を図り、農業経営の担い手を確保するとともに、意欲ある新たな就農希望者への支援・育成を推進します。	
	<b>水産業振興</b>	
	○ 関係団体と連携し、水産業の振興を図ります。	
<b>農業基盤の整備保全</b>		
<p>○ 農地、とりわけ水田は、低湿地に広く展開したため、用排水の管理が難しく、降雨時の排水は、排水ポンプに依存しています。しかし、排水ポンプは、老朽化が進んでおり、排水施設の保全が課題となっています。</p> <p>○ 水田や畑などの農地は、貯水・遊水機能とともに、水資源かん養や水質浄化機能も果たしています。果樹園は、花咲く季節には、美しい景観を形成しています。こうした環境の維持、保全を続けていくことが重要です。</p>	○ 「儲かる」農水産業の実現に向けて、農道や水路などの整備保全を図ります。	

未来へ続く活力あるまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>道 路</b>		
<b>道路の整備・維持管理</b>		
<p>○ 国道7号(新新バイパス)、国道113号、日本海東北自動車道などの東西に貫く幹線道路が充実し、ＪＲ白新線も運行されていることから、新潟市中心部方面と新発田市方面への接続には高い利便性があります。</p> <p>○ 今後は、各区へつながる新潟中央環状道路や、区内の拠点を結ぶ南北の道路のさらなる整備が重要となります。</p>	<p>○ 北区内外の拠点を結ぶ、利便性の高い道路の整備を行います。</p>	
<p>○ 老朽化による道路等の維持管理費の増加が見込まれる中、日常生活環境を維持するため、継続的な維持管理を行い、生活道路網を確保して行くことが求められます。</p>	<p>○ 日常生活環境を維持するため、幹線道路などの維持管理を継続的にを行います。</p>	
<b>土地利用</b>		
<b>計画的な土地利用</b>		
<p>○ 水田や畑などの農業用地が、北区全域に広がっています。新潟東港・新崎・濁川地区などに工業団地があり、住宅地に利用されている松浜・濁川・新崎・早通・木崎・葛塚などの市街化区域が散在しています。</p> <p>○ 北区全体のまちづくりに向け、都市機能の拠点となる地区の計画的な土地利用が望まれます。</p>	<p>○ 計画的な土地利用を推進することで、地域・生活・機能別拠点の充実を図ります。</p>	
<b>公共交通</b>		
<b>公共交通の充実</b>		
<p>○ 東西方向にＪＲ白新線、路線バス(一部住民バス区間)が運行され、新潟市中心部と区内の一部の地域を結んでいます。南北方向には、地域住民が運営主体である住民バス、区が運営主体である区バスが運行され、それぞれＪＲ新崎駅、豊栄駅に結節しています。</p> <p>○ 区内には、公共交通の利用しにくい地域があるほか、今後高齢化がさらに進むことなどから、日常の移動手段である生活交通の引き続きの検討が重要です。</p>	<p>○ 公共交通が利用しにくい地域への対策を検討します。</p> <p>○ 住民バス・区バスについて、運行内容などを継続的に見直し、生活交通としての利便性を向上させるとともに持続可能な公共交通を実現していきます。</p> <p>○ 社会実験を通して、地域に即した公共交通を確立していきます。</p>	

いきいきと心豊かに暮らせるまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>健康</b>		
<b>健康に暮らせる地域づくりの推進</b>		
○北区では、「心不全」「脳梗塞」「脳内出血」「胃がん」で死亡する人の割合が高い傾向にあります。健診結果を見ると、血圧の高い人の割合が市内で一番多く、血圧・血糖・脂質の3項目すべて高い人の割合も多い状況です。	○病気の早期発見・治療に結びつくように、必要な情報提供や受診率向上に向けた取り組みを行うとともに、健康増進・疾病の予防・重症化予防の視点で個別支援・相談・講習会などを通して健康づくりを推進します。	
○高齢化が新潟市全体を上回るスピードで進展している中で、健康寿命の延伸、認知症やフレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）等、介護予防の取り組みを地域で浸透させる対策が必要となっています。	○フレイルチェックの実施と、各種健康教室、講座等を提供し、高齢者自身で生活習慣改善に取り組めるよう支援します。	
<b>福祉</b>		
<b>支え合える地域づくりの推進</b>		
○地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と社会が世代や分野を超えてつながり、一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに作り、誰もが役割を持って活躍できる「地域共生社会」の実現が求められています。	○自治会等が運営する地域の集会所や公民館、空き家等を利用した子どもや高齢者、障がい者等だれもが気軽に集まることのできる通いの場の運営を支援します。 ○地域で暮らす障がい者が、より安心して生活を続けることができる地域社会の実現を目指します。	
○超高齢社会に対応するため、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の深化・推進に引き続き努めていく必要があります。	○住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築や住民主体による高齢者の見守り活動の促進を図るとともに、住民が主体となった高齢者の居場所づくりや生活支援活動の意識啓発を図ります。 ○介護予防事業の利用促進を図ります。	
○身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳等の所持者数は年々増加しており、高齢化も進んでいます。 ○障がいのある人が住み慣れた地域や家庭で快適に生活できるよう、地域における本人・家族への支援体制や多様化するニーズに対応したサービスの充実が必要となっています。	○障がいの有無に関わらず、誰もが暮らしやすく、市民一人ひとりが尊重される共生社会の実現を目指します。	

いきいきと心豊かに暮らせるまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>子 育 て</b>		
<b>子育て支援の環境づくりの推進</b>		
○少子高齢化や共働き家庭の増加など、子どもや子育て家庭をめぐる環境は大きく変化しており、育児の悩みや心配事を相談できる人が身近にいないという子育て世帯が増えています。	○地域の中で世代間が交流し、子育てを支えあう取り組みを実施します。 ○児童虐待等の相談に対して関係職員等が迅速、的確に対応し、かつ関係機関の支援・連携が円滑に行われるよう、資質向上を図ります。	
<b>教 育</b>		
<b>地域とともにある学校づくりの推進</b>		
○学校教育活動のさらなる充実を図るため、学校と地域との一層の連携が重要です。 ○少子化が進む中、次世代の地域を担う子どもたちに寄せられる期待が高まっています。一人一人の子どもの学びと成長を支えるための子どもたちの学習環境などのバックアップと、活力あるまちづくりに向けた基盤整備が重要です。	○学校と地域が共通の目標をもって、支え合い、ともに成長し、活性化しながら、学校と社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、子どもの豊かな成長を支える協働事業を一層推進します。 ○小・中学校における教育の実態や課題、少子化問題など、地域と情報を共有しながら教育環境の整備を行います。	
○複数の大学が立地している強みを活かし、大学等と連携した事業に取り組んでいます。 ○人口減少・少子高齢化が進展する中、より一層地域と大学(生)とのつながりを深め、学校教育活動に若い力を活かし、地域全体で支えることが求められます。	○新潟医療福祉大学などと連携し、区内の小・中・高等学校における児童・生徒の学習支援や特別活動などに対する支援を行い、学力・運動能力の向上を図ります。	
○人口減少・少子高齢化が進み社会環境が急速に変化するなか、人権や多様性を尊重し、学びの循環による人づくりを進めるため、多様な学習機会や活動の支援が重要です。	○社会の変化や市民の多様なニーズに応じた学習機会を提供するとともに、地域・学校・社会教育機関との協働による開かれた学びを進めます。	

いきいきと心豊かに暮らせるまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>文化・スポーツ</b>		
<b>文化芸術・スポーツ活動の活性化</b>		
○人口減少・少子高齢化により、地域への誇りや愛着を持てる環境が失われつつあります。活力あふれるまちづくりをすすめるため、区民が郷土の歴史・文化・芸術に触れ、親しみ学ぶことで豊かな心を醸成し、生きがいや誇り、愛着を育む地域の文化的な環境づくりの支援が重要です。	○区民が郷土の歩みを学ぶ機会や、文化芸術に親しむ機会を創出するとともに、地域の歴史・文化・芸術活動を担う人材を育成します。 ○区民が主体となる文化・芸術活動への支援を通じ、交流人口の拡大や地域の活性化を図ります。	
○人とのつながりと、健康で活力ある生き方が求められています。 ○気軽に生涯スポーツに親しめるような取り組みと、多様な団体が主体となり人と人をつなぐ、スポーツ・レクリエーション活動を促進しています。	○各種スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの活動を支援し、区民が気軽にスポーツ活動に参加できる機会の充実を図ります。	
<b>協働</b>		
<b>コミュニティ活動の推進</b>		
○地域コミュニティ協議会は、区内全域で結成されており、自治会集会所・コミュニティセンター・まちづくりセンターを拠点として、地域課題の解決に取り組んでいます。	○地域団体と行政が協働して人材の育成を図ります。 ○幅広い世代の男女が共同で参画し地域活動に関わることができるような仕組みづくりを検討します。	
<b>区自治協議会との協働の推進</b>		
○社会環境の変化により、区民のニーズや地域課題も多様化・複雑化しています。地域と行政が協働で区民のニーズをとらえたまちづくりや地域課題解決を推進するために、情報共有や意見交換を行うことが重要です。 ○区自治協議会とともに地域課題解決に向け、取り組んでいます。今後さらに区自治協議会活動を充実させるために、区民のニーズや地域課題を迅速に把握できる仕組みづくりや、地域コミュニティ協議会などとの協働をさらに深め、将来の担い手育成にもつなげることが大切です。	○多様化、複雑化する区民ニーズや地域課題に対応するため、区自治協議会活動がより深化するよう取り組みます。 ○区自治協議会の認知度や本活動への理解を高められるよう、広報活動や情報提供に努めます。	



安心安全で住みよいまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>防犯・交通安全</b>		
<b>交通安全の推進</b>		
○交通事故そのものは、年々減少傾向にあるものの、高齢者がかかわる交通事故は毎年大きな割合を占めています。交通安全に関して、高齢者に対する取り組みが重要です。	○地域における交通事故を防ぐため、地域と警察、関係団体と連携し、交通安全に関する啓発活動を行い、交通安全に関する意識の向上に努めます。 ○自治会、町内会とともに高齢者を対象とした交通安全教室を実施し、事故防止を図ります。	
<b>防犯対策</b>		
○区民が安心して暮らしていくためには、犯罪が発生しにくいまちづくりへの取り組みが求められています。	○犯罪を未然に防止するため、地域の協力を得て、青色回転灯装備車（青パト）によるパトロールを継続して行います。	
<b>防 災</b>		
<b>一人一人が災害に備える地域づくり</b>		
○気候変動により災害の激甚化、大規模化が進んでいます。平素より地域の災害リスクの把握や避難行動の検討など、各自の災害への備えが重要です。	○防災講習会などで地域の災害リスクを把握し、避難行動の選択肢を広げます。	
<b>災害時に助け合える地域づくり</b>		
○少子高齢化が避難行動要支援者への支援や避難所運営など、地域で担う防災活動に支障となることが想定されます。世代を超えて、多様性を認めながら、地域全体で助け合う共助意識の啓発が求められます。	○いつ非難するか、何を備えておくか、一人一人が判断して行動できるように啓発に努めます。 ○自ら避難の困難な避難行動要支援者を把握し、地域で助け合う仕組み作りを支援します。 ○防災士が地域に積極的に携わるよう支援します。 ○避難所運営を担う組織体制を支援します。	

安心安全で住みよいまち		
現状・課題	取り組み	左記取り組みのほか、ありますか？
<b>雨水対策</b>		
<b>雨に強いまちづくり</b>		
○ 近年の都市化の進展や局所的な豪雨による市街地の冠水が発生しています。	○ 雨水対策施設は、過去の浸水被害状況や現在の整備水準などにより、優先度の高い地区から浸水対策を進めます。	
○ 過去の浸水被害状況を踏まえた雨水対策施設の整備や治水対策の強化が重要です。	○ 新潟県事業である福島潟流域治水対策河川事業及び国営付帯県営かんがい排水事業と併せて行う農地防災排水事業（阿賀野川右岸地区事業）を推進し、市街地と農地の浸水対策を図ります。	